



アンケートもとに 市民の要望届ける

国が新型コロナウイルス感染症への対応を都道府県に求める中で、実際に対応する町田市では、実態に合った最適な対策を講じるとともに、市民への情報も混乱のないよう提供することが求められます。町田市はインフルエンザ危機事態対策本部を立ち上げ、検討を進めています。町田市保健所がコロナウイルス感染症への対策を行うとともに、全庁で2月下旬に安倍総理が要請した学校の休校への対策、学童保育クラブ、保育園、介護施設などへの対応も行っています。

2020年町田市議会第1回定例会が、2月25日から3月30日まで行われました。日本共産党は、新型コロナウイルス感染症対策と市民の願い実現に奮闘しました。また、「国民生活の緊急防衛、家計・中小企業への強力な支援を求める意見書」を提出、賛成少数で否決となりました。

トには、「突然の休校どうすればいいの」「在宅で友人がうつになつて」「市内の感染の状況や医療体制について知りたい」などいろいろな意見が寄せられました。これらの声を要望書としてまとめ、議会で4回、その後も要望がまとまるたびに、議会を通じて改善を求めました。

子どもの居場所や マスクの提供を実現

日本共産党市議団は、学校を利用した低学年の子どもの居場所や学童クラブの体育館、校庭の利用など、子どもたちの居場所や活動スペースの確保、3月分の給食費全額返還、学童クラブや保育園の登園自粛した日数の料金の減免、コロナ対応の育休延長による保育園入所取り消しを行わないこと、学童クラブや保育園、介護施設へのマスクや消毒薬の支給などを提案し、改善させてきました。その他、コロナウイルス感染症を要因とする事業所や労働者を守るための労働相談窓口の設置、国や都の制度のわかりやすい情報提供も求めました。

コロナウイルス感染症対策の情報を伝えた日本共産党市議団ニュース臨時号

本会議の代表質疑では、細野龍子市議が学童クラブや介護施設への不足するマスクの提供について質疑。市の備蓄マスクを保育園、学童クラブ、障がい者施設、医療機関に配布すること、高齢者施設には国から配布を想定していると市長が答弁しました。

共産党「意見書」提出 休業と二休の補償を

新型コロナウイルスの感染拡大によって、コロナウイルス感染症の治療や検査体制の構築、わかりやすい情報提供を求める声も一層広がっています。それに加えて、町田市議会は、「国に対して速やかな対策を求める意見書」を提出することになりました。日本共産党は、中小事業者の事業継続や雇用維持や収入の安定を図る項目も入れるよう提案し、全会一致で可決されました。

日本共産党は、政府の要請によって仕事や収入を奪われた人や事業所に対して

国が補償を行うよう、「国民生活の緊急防衛、家計・中小企業への強力な支援を求める国への意見書」を提出しましたが、日本共産党、市民クラブの一部、保守の会の一部、諸派の賛成少数で否決になりました。引き続き、外出自粛・休業要請と一体の補償や医療体制崩壊を防ぐ財政的支援などを求め、命と暮らしを守る政治の実現に力を尽くします。新型コロナウイルスに関してご意見やお困りごとがありましたら、下記にご連絡ください。

2020年度 予算に 市民要望実る

学童保育4年生以上受け入れ施設整備

長年、保護者から要望のあった学童保育クラブへの高学年児童（4年生～6年生）受け入れが、2021年度から開始されることになりました。それに伴い不足する保育スペースの確保のための施設



町田第一小学校内の中央学童保育クラブ

LGBT(性的マイノリティ) 電話相談スタート

の増築や、狭あい改修工事の予算1億3千万円が盛り込まれました。

町田市は、LGBT(性的自認及び性的指向)に関する相談者の悩みや不安を解消することを目的として、5月から毎月第2水曜日の午後3時～8時(祝日を除く)に、専門員による電話相談を実施することになりました。これは東京都・市区では5番目となる先駆的事业で、性的マイノリティの方々の気持ちに寄り添い、誰もがその人らしさを発揮できる多様性社会の実現を目指します。

